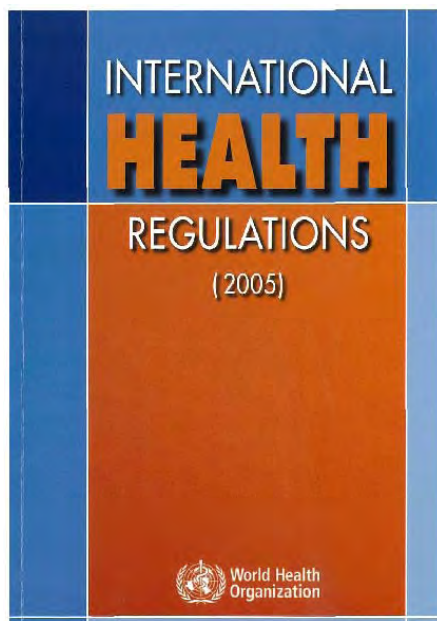


世界保健機関(WHO)による危機管理 — 国際保健規則(IHR) —

- 世界保健機関(WHO)憲章第21条に基づく国際規則。
- その目的は、国際交通に与える影響を最小限に抑えつつ、疾病の国際的伝播を最大限防止すること。
- 2005年の改正前は黄熱、コレラ、ペストの3疾患を対象としていたが、
 - 昨今のSARS、鳥インフルエンザ等の新興・再興感染症による健康危機に対応できていないこと
 - 各国のコンプライアンスを確保する機序の欠如
 - WHOと各国との協力体制の欠如
 - 現実の脅威となったテロリズムへの対策強化の必要性が指摘され、大規模な改正が行われた。

改正国際保健規則

Revised International Health Regulations (IHR2005)



1951年 国際衛生規則 (ISR) 制定

1969年 国際保健規則と改名

2005年 国際保健規則の改正

主な改正点：

1. 対象の拡大

従来、黄熱、コレラ、ペストの3疾を対象としていたものが、原因を問わず、国際的な公衆衛生上の脅威となりうる全ての事象(PHEIC)へと広げられた。

PHEIC : Public Health Emergency of International Concern

2. WHOへの通告義務

PHEICを検知してから24時間以内の通告を義務化。



通告に際する判断の流れ

3. 国内連絡窓口の設置

National Focal Point(NFP)を24時間いつでもアクセス可能とする。

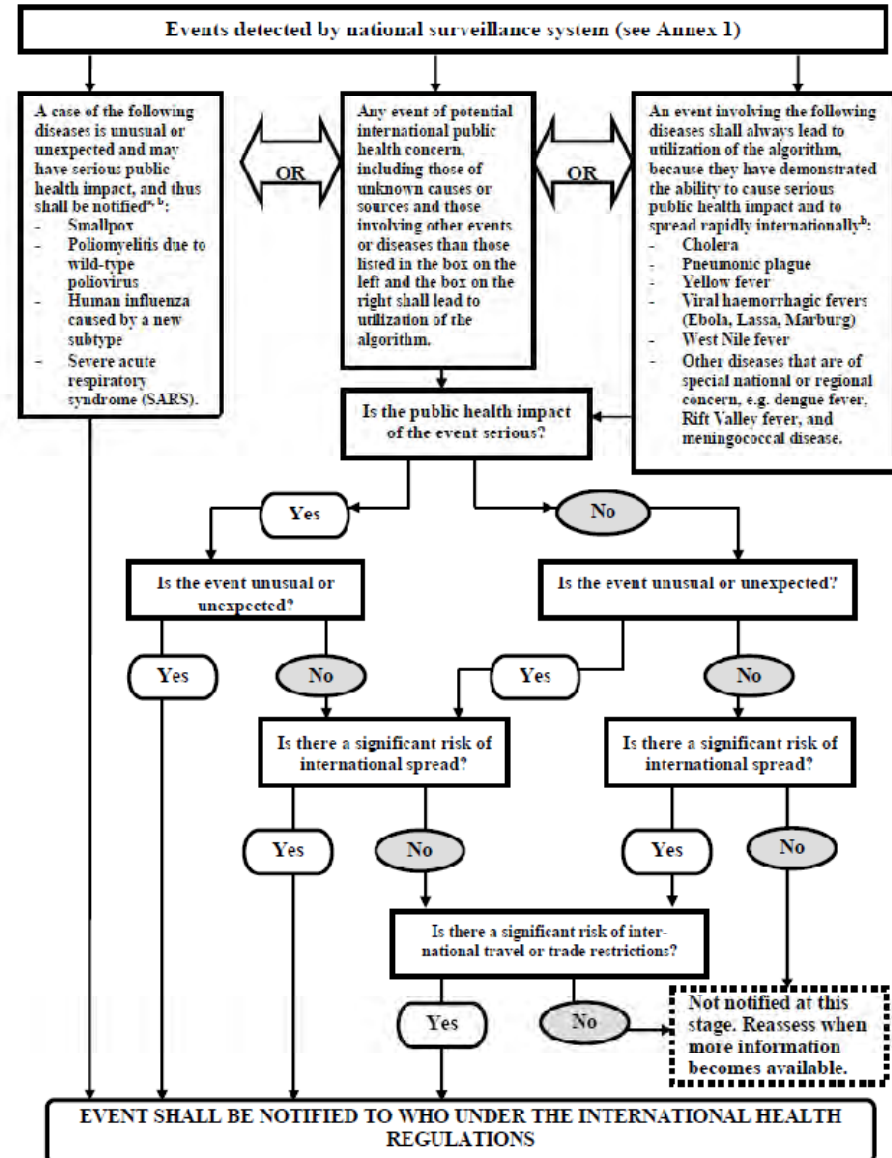
4. 加盟国の体制整備

5. WHOの勧告

6. IHR専門家名簿の作成

7. 出入り口での検疫から、地域内封じ込めへ

ANNEX 2
DECISION INSTRUMENT FOR THE ASSESSMENT AND NOTIFICATION OF EVENTS THAT MAY CONSTITUTE A PUBLIC HEALTH EMERGENCY OF INTERNATIONAL CONCERN



^a As per WHO case definitions.

^b The disease list shall be used only for the purposes of these Regulations.

改正国際保健規則 (IHR2005) に基づく主な情報の流れ概要図

